

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成30年度技術情報第2号（果樹カメムシ類）について（送付）

このことについて、今後の防除指導の参考にしてください。

---

## 平成30年度技術情報第2号

- 1 対象害虫 果樹カメムシ類（ツヤアオカメムシ，チャバネアオカメムシ）
- 2 対象作物 果樹全般（特にナシ）
- 3 発生地域 県本土
- 4 発生量 多

### 5 情報の内容

果樹カメムシ類の予察灯誘殺虫数が平年を大きく上回っている。また、果樹園への飛来も一部で見られる。今後、気温（夜温）の上昇にともない、果樹園へ飛来し、吸汁加害する恐れがあるので、こまめに園内外をよく見回り注意する。

### 6 情報の根拠

- （1）予察灯では、4月以降の誘殺虫数が平年と比べ大幅に多く、特に夜温が高かった5月第4半旬に増加した。ツヤアオカメムシが多いが、薩摩地方北部ではチャバネアオカメムシも多い（図1）。
- （2）一部の果樹園（ナシ，カンキツ）への飛来が認められている。

### 7 防除上注意すべき事項

- （1）果樹カメムシ類の飛来は地域間差，ほ場間差があるため，こまめに園内外をよく見回り，飛来を認めたら直ちに防除する。
- （2）飛来を認めた場合，一回目の防除には残効の長いネオニコチノイド系薬剤または合成ピレスロイド系薬剤を選択する。合成ピレスロイド系薬剤は，ハダニ類の発生を助長する可能性があるため，散布後はハダニ類の発生に注意する。
- （3）防除にあたっては，防除薬剤の使用回数や使用時期を厳守する。

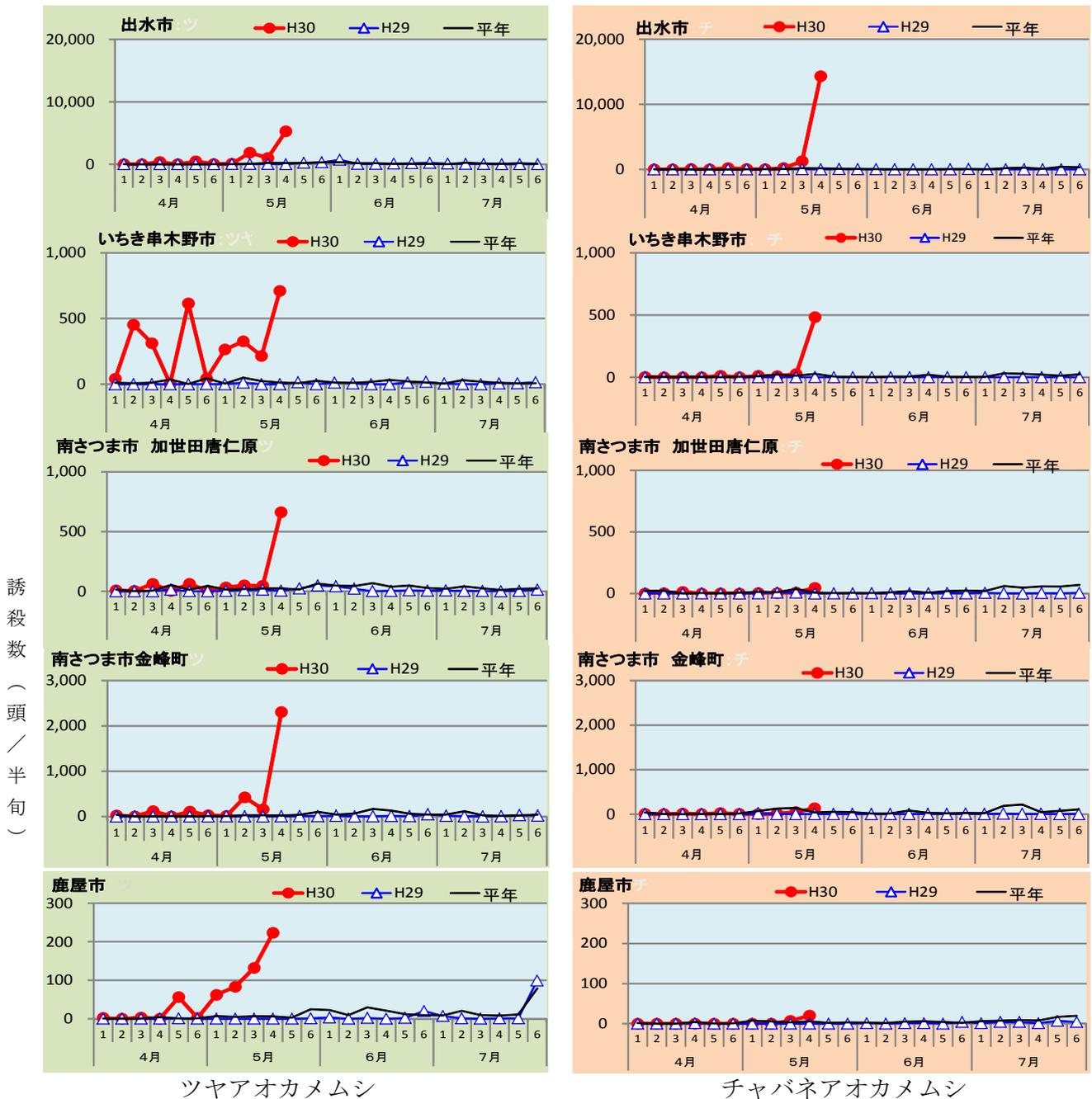


図1 予察灯での果樹カメムシ類の誘殺虫数の推移

注) 平年：南さつま市金峰町と鹿屋市は過去10年間の平均値，他は過去7年間。

<参考資料>

ナシの加害は落果せず，6月頃までの幼果で深い陥没が見られ奇形果となる。その後7月以降には，吸汁跡は浅く陥没しごつごつとした外見となり，吸われた跡はスポンジ状になる。成熟果は外観的に判別しにくいだが，切断するとスポンジ状で白く果汁が抜けている（図2）。



図2 ナシ幼果のカメムシ類の被害